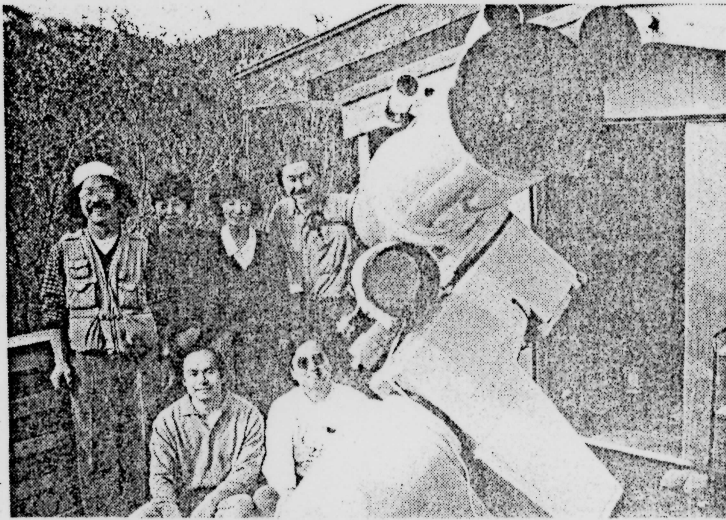


福島民報 11/17



# ほんとの 夜空眺めよう



いわき市田人町の山中に完成した天体観測所と喜びのメンバーたち

## 天体観測所きょう開所

いわき市田人町の山中に「いわき天体観測所」がお目見えした。東京、埼玉など首都圏のアマチ

ユア天文学愛好家が「澄んだ夜空で星の観察を」と五年がかりでコツコツと

の場所」とニッコリ。常磐自動車道の開通で、首都圏から車で三時間半から四時間で来れ「寝泊まり出来るし、週末などに利用したい」という。ハレーすい星が大接近した六十年八月、一部使用を開始。昨年十二月には同観測所で埼玉県比企郡吉見町の高校教諭市村義美さんが「新すい星を発見「市村すい星」と命名された。

観測所を作ったのは東京都世田谷区の設計事務所経営田中政明さん(53)ら二十人。メンバーはそれぞれ星に魅

り、翌五十八年着工。資金はメンバー一人一つつ出し合い、仕事の合間を見せは田人町に通った。建物は大工

前夜祭はこのすい星発見一周年記念も兼ねて開かれ、メ

### 5年がかりで作る

せられた人ばかりだが、首都圏では街の明かりによる「光害」が目立ち、思うような活動ができない悩みを抱えていた。このため、自分たちの観測所を、去る五十七年から土地探しを始めた。長野や群馬県などの山中をくまなく歩いたが、メンバーの一人で、

ンバーのほか文部省国立天文台の香西洋樹助手ら二十人が出席した。この後、早速観測会に入り、夜空に輝くオリオン座などを眺めた。六日は正午から立食パーティーの開所式を催す。

いわき市四倉町出身の会社員新妻宏茲さん(53)「神奈川県相模原市」のアドバイザーもあり、田人町に決めた。この土地探しに一年半かか

観測所は木造二階建てで、八十平方メートル。スライド式の屋根を取り付け、十四等星まで見えるニュートン式反射望遠鏡をはじめ五台の天体望遠鏡を設置している。

メンバーは年齢二十四歳から五十一歳までで、職業も会社員、教員、主婦らさまざま。「星と同時に野鳥や植物、昆虫などの観察も行い、地元の人たちとの交流も深めてゆきたい」と語っている。

## 首都圏のアマ天文家20人